

あ・うん

金剛禪総本山少林寺広報誌

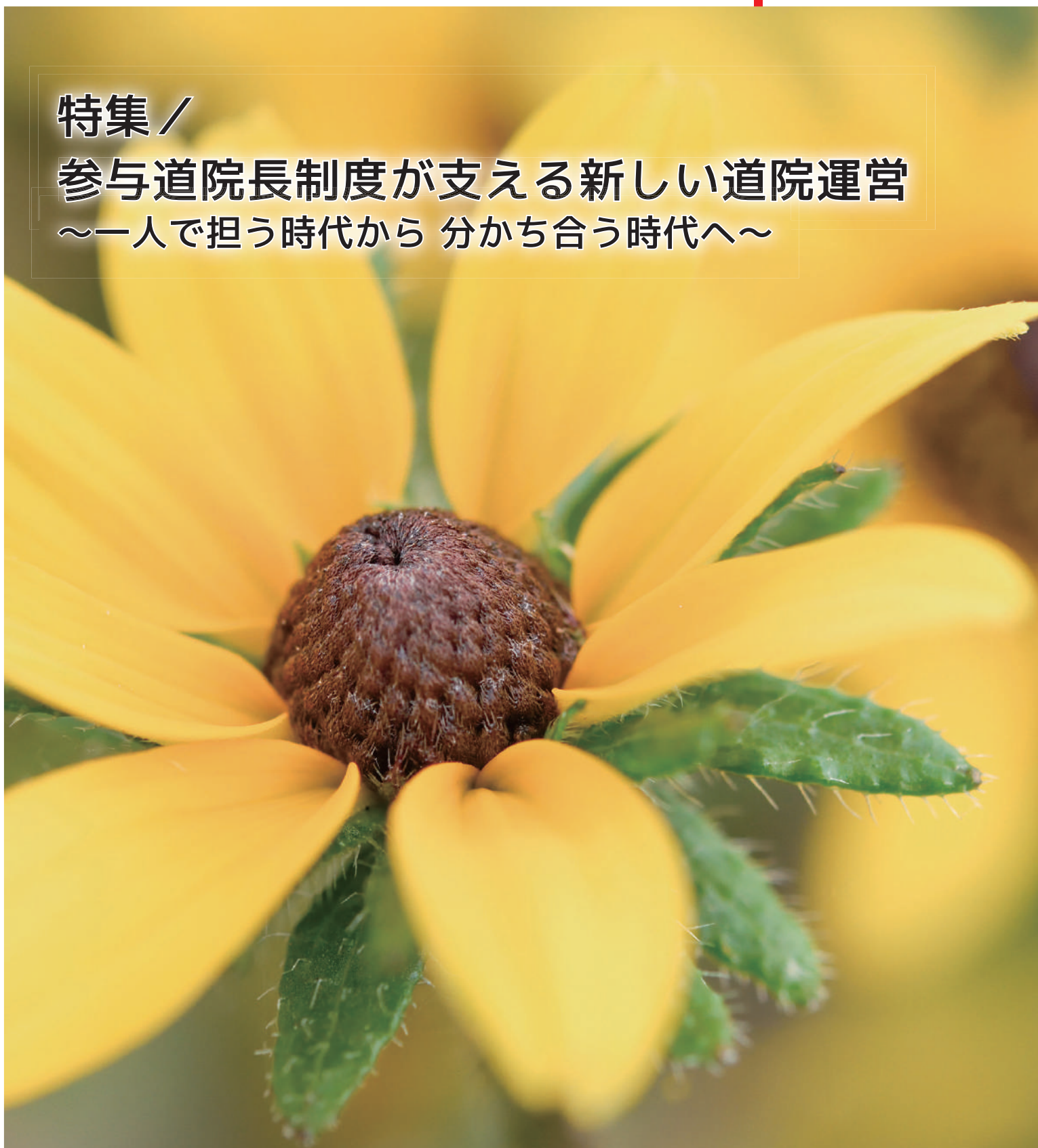
vol.
102

2025 長月・神奈月

特集／

参与道院長制度が支える新しい道院運営

～一人で担う時代から 分かち合う時代へ～



参与道院長制度が支える 新しい道院運営



「参与道院長制度」をご存じですか？ 道院運営を複数人で協力して行えるこの制度は、近年ますます注目を集めています。人材育成、運営負担の軽減、そして新しい布教のあり方として、多くの道院で導入が進んでいます。今回は、実際に制度を活用している3つの道院に、その魅力や具体的な運用についてお話を伺いました。

桑名城南道院 (右)富田祐子 代表道院長／(左)林比登志 参与道院長

なぜ今、
「参与道院長制度」なのか？

参与道院長制度は、後継者の育成や道院の持続性を高めることを目的に、1つの道院に複数の道院長資格者を置き、協力して運営することを認めた制度です。複数名の道院長のうち、最終的な判断や責任を担う者を「代表道院長」、それ以外を「参与道院長」と呼びます。

これまで、道院長はいわゆる「一国一城の主」のように、一人で運営や指導の責任を背負うことが一般的でした。しかし実際には、道院長の急な不在により道院が廃止されるケースや、運営の重さゆえに新たな担い手が現れにくいという課題が生じていました。

参与道院長制度は、そうした課題に対して、「一人で背負わなくてもよい」という新たな選択肢を提示するものです。拳士の成長を促しながら、運営の安定も図る。その両立を制度として実現できる点が、今、注目されている理由です。

今回取材したのは、①若い代表道院長を前道院長が参与として支えている道院。②代表道院長と参与道院長が役割を分担し、互いの長所を生かし合って運営している道院。③参与道院長に新しい修煉場所を任せ、布教を拡大している道院。取材を通して、本制度の様々な可能性を掘り下げました。

代表のバトンを託すという選択

活用事例1

林 私は、参与道院長という立場でいつでもサポートできるようにしていますが、基本的な選択の場

林 かつては、道院長といえど20代・30代が当たり前でした。私たちの道院も、これから見据えて、積極的に若返りを図らなければと考えていたんです。そんなとき、道院長研修会で「参与道院長制度」を知り、すぐに道院内の幹部拳士に声をかけました。すると、富田先生が「はい、やります」と即答してくれて。

富田 もともと、子どもが大きくなった道院長になろうと思っていました。タイミングをうかがっていたので、林先生の声かけには本当にご縁を感じました。

林 最初は、曜日で担当を分けながら、少しずつ指導や運営の経験を積んでもらいました。そして1年後には、正式に富田先生が代表道院長となり、私は参与道院長として支える立場になりました。

林 林先生は、「任せる」と言っていて、本当に任せてくれる方です。意外とそれができる人って少ないんですよ。でも、任せきりでなく、必要なきには一緒に動いて、伴走してくれます。困ったときは、いつでも相談に乗ってくれて、信頼できるアドバイザーをくださるので、とても心強いです。

面では代表道院長に委ねます。交代した以上、口を出さないことが大事だと考えています。

新しい風が道院を活性化させる

林 富田先生に交代して、本当によかったと思っています。若い感性で新しいことをどんどん取り入れてくれるし、他道院との交流も盛んになりました。子どもたちも、中学・高校に上がってからも続けてくれるようになっていきました。教え方も本当に上手で、私自身「なるほど」と勉強になることばかりです。富田先生には、「この道院でよかった」と思える拳士をたくさん育ててほしい。そしていずれば幹部拳士を育てて、さらに若い参与道院長を輩出し、もう一つ道院を出せるような器の大きな道院になってくれたらと思っています。

富田 林先生は、とても穏やかで、でも内に熱さを持った方です。拳士たちも、先生の人柄や、この道院の雰囲気が好きだからこそ、長く続けてくれているのだと思います。私はまず、この雰囲気を守っていききたいですね。そして、平均年齢が上がる中で、若い世代をどう育てるかは大きな課題。道院や支部の枠を超えた交流を通じて、若い拳士たちが友情でつながりながら成長できる環境をつくりたい。将来的には、少林寺拳法全体を見渡せるような視野を持つ世代を育てる、その一助になればと願っています。

2人で築く道院運営

活用事例2

互いの強みを活かす関係

野田 中村先生と私は、いろいろ相談し合いながら、互いの強みを活かして役割分担をしています。例えば儀式であれば、2人で話しながら中身を詰めて、導師は中村先生、司会は私、という具合です。修練であれば、バリバリやりたい方は中村先生が見て、女性拳士は私と関わるといことも多いですね。

中村 野田先生は、やる気があり向上心も強く、何よりコミュニケーション力が高いんです。私一人ではできないことも、野田先生ならできる。そんな場面が本当にたくさんあります。特に女性拳士の中には、私には話しづらいことでも、野田先生には相談できる。野田先生が指導に関わるようになってから、女性拳士がどんどん増え、今では半数以上を占めています。

野田 私はどちらかというと行動が先に立ってしまうタイプで、つい見切り発車になることも。でも中村先生は慎重で、物事を深く考える方。私が気づかないことにそつと気づいて、さりげなくフォローしてくださる。だからこそ、安心して思い切って行動できるんです。

ともに歩むからこそ、新しい挑戦もできる

中村 今後は、今の道院の充実を一層図っていくと共に、活動エリ

アとなる修練場所を増やしてみたいと思っています。

参与道院長になったきっかけと気持ちの変化

野田 参与道院長になろうと思った転機は、福岡県教区が主催した「未来を担う道院長支援育成講座」でした。本山の方や先輩道院長のお話を聞き、「この立場なら私にもできるかもしれない」と思えたんです。副道院長のときは、私自身も周囲も「いち幹部拳士」という感覚でした。でも、参与道院長になり「先生」と呼ばれるようになったことで、より責任感が増し、指導も運営も、以前よりずっと意識して行うようになったと感じています。



(左)中村文夫 代表道院長 / (右)野田めぐみ 参与道院長

愛媛宇和道院

うつのみやしゅんじ

やまもとけんいちろう

宇都宮俊二 代表道院長／山本堅一郎 参与道院長

若い世代に修練場所を託すという選択

■「できない」ではなく「どうすればできるか」

宇都宮 2011年の組織改革を機に、それまで使っていた学校の体育館から撤退し、自前の道場を建てました。ただし、スペースの関係で一時は「子どもは受け入れない」と大人のみの修練にしていたんです。

山本 でも、子どもがいないとやはり寂しい。そこで、「子どもをまた受け入れてみませんか」と相談しました。そこから私を中心に、再び子どもたちの受け入れを始めたんです。

宇都宮 ルールは、「ダメ」と言っているように見えて、実は「○○すればできる」と読み替えることが大事です。修練場所の確保もそう。宗教活動が可能な施設なら公施設であっても借りられるというルールをきちんと理解すれば、新しい場所だって拓けます。

山本 実際、今の広い修練場所も、自分で探して許可を取りました。「できない」ではなく「どうしたらできるか」を考える姿勢が、すごく大切だと実感しています。

■新しい修練場所を、若い力に任せる

山本 そんな時期に、宇都宮先生から「参与道院長になって、この修練場所を運営してみないか」と声をかけられました。正直、仕事でも家庭でも手いっぱいだったのでも、道院長は無理だと思っていた

んです。でも「参与」なら、サポートを受けながら段階的に挑戦できると思いました。

宇都宮 昔は「分道場」と称して、資格のない者に修練場所を任せていた時代もありましたが、今は違います。参与道院長は、正規の資格を持ったうえで責任を持って任せられる存在です。だからこそ、安心して任せられるし、組織としても信頼性が担保されるんです。

■任せるからこそ、伸びる

宇都宮 私が意識しているのは、「金は出す、知恵も出す、口は出さない」。任せたからには、見守る立場に徹するべきです。実際、山本先生がやった方が拳士も集まります。子育て世代で、保護者とも自然に接点があるからです。

山本 参与道院長になってから少しずつ任せられるようになり、今では指導も運営も、ほとんど私に任せてもらっています。でも、仕事で出られないときには宇都宮先生がすぐ代わってくれるし、何でも相談に乗ってくれるので、本当に安心して運営ができています。

■「育てた子」が黒帯になる日

山本 最近、入門時から見てきた子どもが黒帯になりました。黒帯の瞬間なんて何度も見たはずなのに、自分が関わった子だと思ふと、特別に嬉しかったんです。将来、その子が別の地で道院長になったり、活躍してくれたりしたら……そんなふうに夢を見るよう

になりました。参与道院長になって、見える景色が本当に変わったと思います。



(左)宇都宮俊二 代表道院長／(右)山本堅一郎 参与道院長



▶参与道院長制度を導入するには？

【1】申込要件の確認

申込時点で「少導師・正拳士四段」以上であれば、道院長資格認定研修会を受講できます。

【2】まずは本山へお問い合わせを

制度の詳細や導入手続きについては、本山へ電話またはメールでお気軽にお問い合わせください。制度の趣旨や、道院ごとの事情に応じた導入方法について、個別にご案内いたします。

【3】認定研修会を受講する

次の道院長資格認定研修会は、2026年2月14日(土)～15日(日)東京別院にて開催予定です。申込締切は2025年11月23日(日)です。

■まとめ
参与道院長の成長は道院の未来を育てる

参与道院長制度は、単なる「負担の分担」や「人手の確保」のための仕組みではありません。道院長のサポートを受けながら、実践を通じて経験を積み、責任感や視野を広げていく。そういった、次の時代を担う指導者を育てるための仕組みです。ぜひこの制度を有効に活用してください。

担当／内藤大將

信念を持って人生を切り開きたい

1973年9月
指導者講習会

私は自分も信じるが、他の人の直截な発言や態度に触れたときは、その人を本気で信じることにしている。で、今、「信じる」と簡単に言ってしまったけれど、信じるということ、実はひどく難しいんじゃないかな。例えば、信じるの「信」、この字は「人」と「言」で成り立っていて、「言」とは言明、はっきり言うの意味ですね。で、「信」とは要するに、一度言明したことは途中で曲げたり屈することなく、どこまでもやり通す人間の行為を表す、かなり重みをもった文字です。が、『論語』にも「言必信、行必果」^{かならず言はば必ず信、ことなからば必ず行}とあるように、ちょっと乱暴だが、「言ったことは実行します。しました」だけでは、これは大したことない。だってそうだろう。例えば、「あの先生はしつかに厳しいだけでなく、本人もきちんと要求するだけで自分はいいかげんという人が多すぎるから、確かにこれはこれで、大変すばらしいことだと思えます。

でも、日常の生活や人間関係、あるいは公共道徳において律儀だ、まじめだ、いい人だというだけで、果たして十分だろうか。今言ったような範疇^{はんちゆう}での言行一致は、本来人として持つべき基本的姿勢であり、そうあって当たり前。が、それだけでは、あえて言うなら、先ほどの「碌々然として小人なるかな」^{ろくろくぜんとしてしょうじんなるかな}。「あの人はいい人だから信用できる」「悪いことのできる人じゃない」ぐらいの、消極的「信」でしかない。

で、むしろ私がより問題にしたい、大事だと思うのは、信の中身・内容です。別の表現をすると、私たち人間は理想や誇りといったものを、自らの信念、意志によって持つことのできる生き物ですね。つまり例えば、この矛盾だらけの人間社会をちょっとでもよくしたい願望、「理想境建設」といった価値観を持ち続けようとする、そうした信念・意志を持ち得る——人間とはそういう存在でもある。そしてこの認識の上に、私たちの掲げる信条とその実践、言・行を、日々の

公共道徳的言行一致を超えたレベル、角度から、ときには考えていこうじゃないか——ということです。

「この世のことは神のみぞ知るで、すべては神の御心次第。われわれにはどうすることもできない」なんて言いたい人もいるかもしれない。でも、だったら戦争が起きるのも、無意味に殺されるのも神の御心なのか。私は単純人間ではあるけれど、神様なんぞに振り回されたり、おすがりして助けてくださいなんて生き方はごめんだ。たった一度しか生きられないんだ、平気で高望みし、信念を持って自分の人生を自分で切り開き自ら考えたように生きたい。そして祈るなら神にではなく、平和への祈り、人類の幸福への願望、私は貫きたい。



志を心につなぐ

おのぎ けんぞう
大野木 憲三 193期
大導師大範士九段



志は人から人へ 師との出会いが人生を変える

「お前はなんとも思わないのか」

少林寺拳法との出会いは、高校3年生の時のカッパブックス『秘伝少林寺拳法』でした。「少林寺拳法」という響き、法衣姿の技の写真が実にカッコいい。早速東京道院(内山滋道院長)に見学に行っただけです。

入門当時は山崎博通先生が道場長でした。山崎先生の突き蹴りの鋭さに魅了され、ひたすら修練に励んだものです。やがて道場の雰囲気にも馴染んできた頃、一つの転機が訪れました。

その日、修練が終わって、内山先生をはじめ他の拳士たちといっしょに帰ろうとした時、山崎先生に呼び止められたんです。

「内山先生が重たいかばんを持たれているのを見て、お前は何とも思わないのか」

「え？」

一瞬戸惑いました。たしかに、内山先生の両手はかばんや風呂敷でふさがった状態でした。なんで俺みたいな下っ端に言うんだらうと。でも、すぐに内山先生のところに駆け寄り、「先生、おかばんをお持ちします」と。すると先生は、「うん? そうか」と言っ

て、私にかばんを預けられたんです。

それ以降、必ず私が内山先生のかばんを持ちをするようになりました。かばん持ちです。内山先生のお側を離れることができません。ようやく私は、内山先生に顔と名前を覚えていただくことが



開祖(左)内山先生(右)とともに、後列右端が大野木道院長

できたんです。まさに、山崎先生の一言が私の人生を変えたといっても過言ではありません。

東京港道院、祖師谷道院の道場長として

山崎先生が大学を卒業され本山に入山されると、大学三年生で中拳士だった私が、道場長として指導全般を取り仕切るようになりました。内山先生は少林寺拳法関係の仕事で毎日走り回られていましたし、開祖が上京されると開祖に付き添われま

す。内山先生は開祖から東京進出の命を受け、昭和32年にご家族を連れて東京道院を設立され、実に多くの指導者を輩出なさいました。私のことを厳しくも優しく見守ってくださった先生、それが内山先生です。また一人は中野益臣先生です。中野先生からは少林寺拳法の奥深さを数多く学ばせていただきました。そしてもう一人は山崎博通先生です。山崎先生は私の育ての親です。まだ白帯の頃から私を導いてくださり、何かの試練があるたびにさりげなくご助言をくださり、幾度となく勇気づけられたことでしょう。

三人の師

信用から信頼へ、信頼から尊敬へ

内山先生から、「今日は取材があるから、演武の用意をしておけ」と言われることもしょっちゅうでした。ある時は米軍の横田基地へ行っ

私に指導者となって一貫して伝えてきたこと、またこれからも伝えていくこと、それは、「信用、信頼、尊敬」です。まず信用される人間になれ。そのためには、自らの言動に責任を持ち、それを果たすことです。次に信頼される人間になれ。何かあったら頼りにされる、頼もしい人間になること。その上に、尊敬される人間になれ。人からの信頼に応えることによって、やがて尊敬される自己に高めることができたならば、たいへんな人格者です。しかし、いきなり尊敬される人間にはなれません。まず信用を得る生き方を心掛ける。それを続けていくと、やがて信頼されるようになる。それを続けていくと、やがて尊敬されるようになるものです。

少林寺拳法で得た恩恵は少林寺拳法に返す。これからの恩師から伝授されたものは、次世代にしっかりと伝えていきたいと思っています。

地元区長さんの熱意に押され道院開設

私は道院長になるつもりはなかったんです。ずっと、東京港道院、祖師谷道院にいて、内山先生をお支えするつもりでいたんです。でも、会社の取引先の人で、私に信頼を置いてくださった方がおりましてね。その方が、東武東上線の鶴瀬駅近くの藤久保という地区の区長を務めておられ、「藤久保に集会所を建てたから、そこで大野木さんに少林寺拳法を指導してほしい」と。

はじめ、お断りしました。でも、その人の熱意に押し切られました。27歳で埼玉鶴瀬道院を設立したんです。

道院を設立し、今年(2025年)1月の本山新

道院長

元気の素



群馬県・伊勢崎東道院
道院長 石田 浩一
いせざきひがし いしだ こういち

少林寺拳法との出会い

十代の後半、毎日のように仲間と集っては好き勝手に生きている頃、出てくる言葉は決まって「何か面白い事は無いかな」でした。自分でも気づかないくらい調子に乗っていた時で、地元の先輩5、6人に呼び出され囲まれたことも。強くなりたいとの思いから、映画「少林寺」と似ている名称の少林寺拳法に興味を持ち、近くの道場を調べ、群馬前橋道院の江原謙治先生の道場に見学に行ったのが、私と少林寺拳法との出会いです。

突き蹴りの素早さや逆技の痛さを体験し、こんな武道があるのかと感銘を受け、直ぐに入門を決めました。(当時19歳)

入門してからは全てが新鮮で、基本・法形は言うまでもありませんが、稽古が終わった後に行うグロップを着けるの先輩方との乱捕りは、格別に楽しい時間でした。それに加え、江原先生のお人柄に魅了され、どんどん少林寺拳法に惹き込まれていきました。

道院設立の経緯



江原先生が群馬県連の理事長をされていた時に、群馬県内の道院を増やそうという動きがあり、「今ある道院から一つ道院を出す人がいれば単純



に今の2倍の数になると話されたことがありまして。それまでは、道場長としての大役を任されていたこともあり、前橋道院で一生続けるつもりでいましたが、親父同然である江原先生が言われたことに對して10年間お世話になった恩返しではないですが、自分の可能性を信じてやってみようという思いから、妻を含む前橋道院の数名の拳士とともに、2010年2月に伊勢崎東道院設立の運びとなった次第です。

個人として目指していること

不器用な人間であるが故に、自分の信じた道を真っ直ぐにしか進めないのが、創始者 宗道臣先生の「正直者がバカを見る世の中だけれども、それでも正直者がバカを見ない世の中を作ろうじゃないか」という言葉と、江原先生の「正しい事を正しいと言える人になれ」「相手によって態度を変えるな」という言葉を、私にとつての「拳禅一如・力愛不二」として、自分に嘘をつかずに生きることを目標としています。

道院設立から心掛けていること(指導方針)

指導方針としては、「まずはやってみよう」ということをベースに、「楽しんで取り組んでいるか」を判断基準としています。それに加え、「門下生にかっこいい大人の姿見せよう」というオプションもついています。今まで出逢った多くの先生方に共通している「かっこいい」と思うところは、指導者が誰よりも汗を流して指導に当たっているところと、言葉だけで伝えるのではなく、自分の体を使って共に汗を流しながら伝えていくことこそ、門下生に見せべきかっこいい大人の姿であると思っています。

個人として目指していることは自分の可能性を信じる姿を見せることです。

「少林寺拳法を続けやすい環境」を考えたときに行きついたのが、脱サラをして農家になることでした。稽古の時、事あるごとに少年拳士には「君たちは何でもできる」と話しているため、自分自身が「本気でやればなんでもできるんだ」という姿を見せてあげたいという思いもありました。とはいえ、農業の道にスムーズに進めたのも結局のところ少林寺拳法の教えがあったからです。「社会で必要とされる人間になれ」との言葉に、若い時に地域の消防団に入団していたことがあり、そのとき出逢った人に農家さんがいたため農家への転職のノウハウを教えてもらうことができました。

今後の目標

森信三氏の言葉に、「人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早すぎず一瞬遅すぎないときに。しかし、うちに求める心なくば、眼前にその人ありといえども、縁は生じず」というものがあります。

江原先生に出逢い生き方が少しずつ変わり、人として生きる道を知れたお陰で今の自分があり、子供3人の育児をしながらも拳士として復帰してくれた妻のおかげで、少林寺拳法を通じて家族で同じ時間を過ごせていることを思うと、自分一人の努力ではなく、今まで出逢ってきたたくさんの人からの支えがあつて現場が成り立っているんだと実感しています。これから先も現状に満足することなく、「自分の可能性を信じられる人」を育てていきたいと思っています。



伊勢崎東道院

検索



かんがえてみよう やってみよう



チャレンジ①



ちゅうごく すうざんしょうりんし
これは、中国の嵩山少林寺にある
えのイメージイラストです。この
えを見て、気づいたことや、かん
じ
を、き
こ
ひ
を、は
つ
び
やう
たことを発表してみよう。

しょうねんとくほん
『少年読本』p.21

チャレンジ②



にんげん どうぶつ なん
人間とほかの動物のちがいは何だ
おも
と
思いますか。理由もあわせてか
んがえてみましょう。

しょうねんとくほん
『少年読本』p.6-12

講習会・研修会・大会等
(地方)
開催報告

●本山公認教区講習会(派遣講師)
[3月29日]天分県教区(飯野 貴嗣)
[5月11日]山梨県教区(藤森 正和)
[5月25日]京都府教区(今井 偉夫)
[6月29日]群馬県教区(黒田 裕子)
千葉県教区(前田 保男)
千葉県教区(藤井 省吾)

●教区研修会
[5月24日]東京都教区
[5月25日]神奈川県教区
[6月1日]青森県教区、愛知県教区
[7月6日]岐阜県教区、愛媛県教区
[7月13日]栃木県教区
[7月20日]神奈川県教区

●小教区研修会
[5月18日]青森小教区
[5月24日]栃木小教区
[5月25日]茨城県南西小教区
[5月28日]鳥取県東部小教区
[6月1日]山形置賜小教区
[6月4日]山形庄内小教区
[6月8日]茨城中央小教区
[6月15日]三重伊賀小教区
[6月22日]和歌山海南・中紀小教区
北海道函館小教区
青森小教区
静岡東部小教区・静岡伊豆小教区合同
静岡西部第二小教区
[7月5日]北海道釧根小教区・北網小教区・十勝小教区 合同
山口中央小教区
山口西小教区
山口東小教区
[7月12日]山口東小教区
[7月13日]新潟上中越小教区
静岡中部小教区
静岡西部第一小教区
香川中讃小教区

..... INFORMATION

道院認証

認証おめでとうございます

●設立

■2025年7月1日付
埼玉坂戸道院 一瀬 仁資

●交代

■2025年7月1日付
千葉宮野木道院 清水谷 正道
高松東道院 山口 豪紀

●参与

■2025年6月1日付
加西道院 切貫 裕介
大和桜井道院 原田 勝秀

■2025年7月1日付

洛南道院 吉村 宏起
大阪池田道院 井上 肇
大阪池田道院 山部 晃治

高松東道院
高松東道院
高松東道院

喜多 竜巨
藤川 敬
合田 準

法階昇格者

昇格おめでとうございます

正範士

■2025年6月22日付
深澤 宏(海老名道院)
山下 研治(愛知浄水道院)

准範士

■2025年6月22日付
富田 祐子(桑名城南道院)
北野 孝之(京都京極道院)
石川 玲(大阪東住吉道院)
杉田 裕彦(大阪千船道院)
奥西 千秋(川西南道院)

僧階昇任者

昇任おめでとうございます

大導師

■2025年7月6日付
小泉 幸男(旭川西道院)
山口 博之(埼玉行田道院)
鈴木 新(千葉野田道院)
山口 直人(東京錦糸道院)
小原 哲治(西多摩瑞穂道院)
川植 悟(山梨桃の里道院)

中導師

■2025年7月1日付
菅原 修(仙台宮城野道院)
古屋 正男(仙台宮城野道院)
高橋 和博(仙台宮城野道院)
熱海 健(仙台宮城野道院)

■2025年7月6日付

佐藤 佐知雄(福島桑折道院)
石神 克巳(東松山道院)
三上 佳之(愛知吉良道院)
寺川 和代(滋賀瀬田道院)
藤井 律子(広島八丁堀道院)

お布施

心より感謝申し上げます

開物故指導者顕彰法要

▷山上 万智子様
(故 内山 滋先生/ご家族) 10,000円
▷藤田 久代様
(故 藤田 修治先生/奥様) 10,000円

その他

▷豊田末野原道院 服部 俊美 10,000円
▷全日本学生連盟OB 10,000円

公認講習会

▷群馬県教区 30,000円
▷千葉県教区 30,000円
▷京都府教区 30,000円
▷香川県教区 30,000円

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

なかの ますおみ
中野 益臣
もりもと えいじ
森本 栄治
ごとう たかし
後藤 隆志
きた よしのぶ
喜田 良延
はつの よしみ
初野 好
せと ひろなお
瀬戸 裕直
なかむら ひでかず
中村 秀一

埼玉中部道院元道院長、第26期生、大拳士八段、2025年3月1日逝去、満94歳
姫路白鷺道院道院長、第342期生、中導師大拳士六段、2025年5月26日逝去、満58歳
板橋蓮根道院元道院長、第303期生、中導師正範士七段、2025年6月8日逝去、満70歳
高松南道院道院長、第77期生、大導師大範士九段、2025年6月11日逝去、満90歳
深川道院、千駄ヶ谷道院元道院長、第177期生、大導師正範士八段、2025年6月21日逝去、満95歳
茨城つくば道院道院長、第262期生、中導師大拳士五段、2025年7月7日逝去、満75歳
大和高田道院元道院長、第218期生、中導師正範士八段、2025年7月9日逝去、満87歳



家族で紡ぐ少林寺拳法の絆 ～道院修練を通じて広がる学びとつながり～

滋賀新旭道院 下司和之 道院長

滋賀新旭道院では、年齢や世代を超えて、少林寺拳法に真摯に向き合う門信徒が多数修練に励まれています。6月22日に滋賀県立武道館で行われたUNITY主催の昇格考試では、当道院から3名が初段に合格されました。藤本千恵さん(68歳)をはじめ、木下幸男さん(76歳)、山川友子さん(68歳)の皆さんです。お三方は約4年前より健康づくりと自己の向上を目的に修練を始められ、日々道院での稽古を積み重ねてられました。市内で毎年開催される武道祭や文化祭にも積極的に参加され、地域との関わりも大切にされています。

特筆すべきは、今回初段に合格された皆さんが滋賀県における男女ともに最高齢の初段取得者であることです。特に男性である木下さんの合格は、関西地域でも数名しかいない大変貴重な事例とのこと。

また、藤本千恵さんのご一家は、まさに「家族で歩む少林寺拳法」の実践者です。子どもである鉄矢さん(初段)、果緒里さん(初段)、孫の翔伍さん、結衣さん(いずれも初段)、そして姉の恵子さん(5級)と、家族6名が共に道院で汗を流しています。果緒里さんと結衣さんは、2019年愛知県で行われた全国大会に「親子の部」で出場するなど、道院での学びを家庭や社会に広げながら活躍されています。

皆さんの共通点は、「道院での修練を通じて、自分自身の心と体が整っていくこと、そして師や仲間と共に学べる喜びがある」ということです。ご家族や仲間との絆が深まり、自然と少林寺拳法の話で盛り上がることも日常の一部となっているようです。

道院は、単なる技術の習得にとどまらず、人としてどうあるべきかを学ぶ場です。誰かの励みになりたい、背中を見せたい——そんな思いが、年齢を超えて人の心を動かしていきます。

これからも、滋賀新旭道院では、共に学び合い、高め合う修練を大切にしながら、門信徒一人ひとりの成長と歩みを支えていきたいと思ひます。



達磨祭

本年度の本山における達磨祭は、10月5日(日)に開催いたします。以下の概要をご確認いただき、ぜひ参加をご検討ください。
参加を希望される方は、道院長を通じてお申し込みください。

【日時】2025年10月5日(日) 9:00～12:30

【場所】金剛禅総本山少林寺

9:00～9:40 達磨祭法要

祖師達磨の遺徳を偲び、拳禅一如の修行に精進することを誓います。

10:00～10:30 全体演練

【みんなで千本突チャレンジ!】

※年齢や体力に合わせて自由に参加いただける形式です。随時、休憩も挟みますのでご安心ください。

10:50～11:10 太鼓・全体演武

【太鼓に合わせて単独演武や組演武を行い、みんなで行事のフィナーレを飾ろう!】

11:10～12:30 だるまクエスト

【本山内を自由に巡ってミッションをクリアしよう!】

※任意参加、子ども向け企画です。

クリアした方には記念品もご用意しています。



01

02

03

04

05

時代を超えて届く、大切な教え。

ことばの贈り物

わたしたちは、見えない大きな力に
そっと生かされている。
宇宙がずっと動きつづけてるように、
わたしたちも ちよつとずつ
前にすすめるはず。
転んでも また起きればいい。
まちがえても またやりなおせばいい。
ダルマみたいに、
のんびり つよく やさしく。

開祖語録

「宇宙に実在している偉大な力を分け与えられている、価値ある人間としての、しかも、誰もが等しい存在であるという自覚を持ってもらいたい。宇宙には、目には見えないせよ、すばらしい働きが存在し、あらゆる生命はそこで生きているということを、君らも信じたらどうだろう。そして七転八起、不撓不屈のことで象徴される達磨のような人間にならなさい。こけてもすぐに起き上がり、「参った」を言わない。私はだから達磨に近づき努力をしているが、そういう人間になるの、いいぞ。」

Next time ▷

宗門の行

不確実な時代を生き抜く力を育む

本稿で掲載の連続複数法形修練を下記の二次元コードより動画でご覧いただくことができます。動画をご覧いただくとよりイメージがつかみやすくなりますので、ぜひご覧ください。

ショート Ver.
(攻守交代なし、片方のみ)



ロング Ver.
(攻守交代あり、左右)



単一と複数

連続複数法形修練は、単一の法形を繰り返すのではなく、複数の法形を連続して行うことに意義があります。これは普段の修練において単一の法形を繰り返して行うことが日常的に行われていることを前提としており、その基礎の上に対応力を身につけることを目的としているからです。

単一の法形修練では、原則として単一の攻撃に対して単一の防御反撃を行います。が、連続複数法形修練では、同じ攻撃に対しても複数の対応を行うことになるため、たとえ似たような法形であっても「先」「間合い」「体勢」などに微妙な変化が生じます。さらに、異なる攻撃に対する修練ではその変化は一層大きくなり、守者は常に状況に応じて最適な対応が求められるようになります。このように、単一の法形から幅を広げていくことで、状況に応じた柔軟な対

対応力を養うことができるようになっていきます。



統合の過程

対応力とは、突発的な変化や予期せぬ事態に対しても冷静に、的確に行動できる力です。これまでに学んだ法形を組み合わせ、科目を横断的に修練していくことは、個別に習得してきたスキルを有機的に統合し、より高い次元で応用する力を育むことにつながります。

このプロセスは、学校教育で各教科を学ぶ姿勢にも似ています。教科ごとの知識は、それだけでは現実の問題に対応しきれません。学んだことを土台として、知識を横断的に結びつけ、実際の課題に当てはめていく力が求められます。

特にこれからの時代、いわゆるVUCA※(ブーカ)と呼ばれる不確実で複雑な社会においては、単一の知識や方法だけでは問題を解決できない場面が増えていき

ます。多様な情報や経験を統合し、既存の枠組みを超えて新たな解決策を見出す力、すなわち柔軟で主体的な態度がますます重要になります。そしてそのような力は、一朝一夕で身につくものではなく、日々の修練を通じて培うことができます。

多様な課題へ対応

この意味で、連続複数法形修練によって養われる対応力や姿勢は、単に技術を高めることにとどまりません。むしろそれは、私たちが日常生活の中で直面する多様な課題に対応する上でこそ、真に活かせる力なのです。

※VUCA: Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)
の英語の頭文字を組み合わせたもの

文／富田雅志

DISCUSSION

さらに考察を深めるため

- これまでのご自身の体験の中から、問題・課題に対処している具体的な場面をいくつか思い浮かべ、その時にどのような知識や情報、スキル、経験が活用されていたかを振り返ってみましょう。



宗門の行としての少林寺拳法

不確実な時代を生き抜く力を育む

修練によって養われる対応力や姿勢は、日常生活の中で直面する多様な課題に対応する上でこそ、真に生きる力である。

修練と日常は相互に影響し合い、高め合う関係にある。修練で培った態度や力は、道場の外、職場や家庭、地域といった現実の場面でこそ発揮されるべきものであり、その実践の積み重ねこそが、これからの社会を生き抜く確かな力となる。

→詳細は11ページ「宗門の行」へ

【連続複数法形修練】

逆天一 → 対天一 → 蹴天一



ショート Ver.
(攻守交代なし、片方のみ)



ロング Ver.
(攻守交代あり、左右)



文／富田 雅志 演武者／野村 竜雅 正拳士四段、内藤 大将 大拳士五段



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法



<https://lit.link/kongozenshonzanshorinji>

金剛禅総本山少林寺のSNSもぜひご覧ください。